

# 令和2年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 S S H事業を継承する「世界をリードする科学技術人材育成事業」などの取組を活かすとともに、「教育課程研究事業」の継続・推進による質の高い授業を行い、生徒の学力を一層向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成するとともに、積極的に地域に貢献し信頼される学校づくりを行う。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価 (月日現在)		実施日	令和年月日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	観点	次年度の課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	生徒は学習、部活動、委員会、生徒会活動、学校行事など学校生活全般に積極的に取り組む姿勢がある。 次世代のリーダーとして高い志を持ち、主体性を育成するため校内の諸活動とともに地域貢献を推進する必要がある。	次世代のリーダーとしての素養の向上	①授業、学校行事、委員会、生徒会活動、部活動の推進 (全教職員) ・生徒が主体的に学ぶ授業の展開に努める ・学校行事に携わる委員会や教養 (図書委員会、人権教育委員会)、風紀 (生活委員会) 等に関する各種委員会の更なる充実 ・部活動をととした志の育成やリーダーとしての素養の育成 ②地域との連携事業やボランティア活動の推進 (生徒会・特活部・科学教育推進委員会・部活動顧問・家庭科) ・小中学校への学習支援 ・部活動における小中学校との連携 ・部活動や委員会等による地域への貢献 ・保育・福祉施設等でのボランティア	①生徒が主体的に取り組むよう、授業、学校行事、委員会活動、部活動を運営できたか。リーダーの素地を育成することができたか。 (今後、生徒アンケートにより各項目の達成度を検証する) ②連携事業により幅広く地域に貢献できたか。 生徒の社会性を育むことができたか。生徒がリーダーシップを発揮できたか。 (生徒へのアンケートや連携機関へのヒアリング等から達成度を検証する)				
2	国や県の事業を活用するとともに昨年度指定を受けた教育課程研究事業 (大学進学指導拠点校) の取組を活用し、質の高い授業を実践している。 昨年度までの取組はもとより今年度新規事業である「世界をリードする科学技術人材育成事業」を活かしつつ、次世代の社会に不可欠な思考力・判断力・表現力等の向上を目指した授業改善を行う必要がある。	授業改善の推進	①新学習指導要領に対応した授業改善への継続的研究 (企画委員会・教務部) ・職員研鑽機会の充実 (研修会や公開授業週間の充実) ②教育課程研究事業 (企画委員会、教育課程委員会) ・進路指導拠点校間での連携による研究 ・新学習指導要領での教育課程の完成 ③「世界をリードする科学技術人材育成事業」と探究活動の推進 (企画委員会・科学教育推進委員会・探究学習運営委員会) ・「世界リード事業」や探究活動の充実と内容の深化 ・授業等をととした思考力・判断力・表現力等の育成 ④ICT機器の積極的な活用 (各学年・教科担当・教務部・情報科など)	①外部の教員研修、先進校視察等への参加や、校内研修による授業の工夫・改善を行うことができたか。教員相互による授業見学期間を3回行うことができたか。 ②生徒の資質能力を引き出す新教育課程編成は完成したか。 教員の教育課程に対する意識向上が図れたか。 ③生徒の探究成果発表を効果的に実施することができたか。 生徒が主体的・対話的で深い学びを実践しているか。 ④今年度から運用の Google Classroom 等の ICT 機器を活用できているか。				
3	生徒一人ひとりに対する細やかな指導により、地元国公立大合格者が伸びるなど、成果を上げている。 今年度も引続き生徒の第一志望実現を見据え、新入試への適切な対応を行うなど進路及び学習指導の工夫改善を行う必要がある。	進路指導の充実と進学実績の向上	①きめ細かな進路指導 (進路指導部・各教科担当) ・一人ひとりに寄り添う進路相談の実施 ・長期休業や平日に実施する多彩な補習 ②高大接続改革等への対応策の検討 (高大接続改革対応委員会・科学教育推進委員会) ・新入試を踏まえた対応策の検討 ③進路指導に係る最新の情報収集及び情報共有 (進路指導部) ・新入試への対応策の検討および実施 ・教職員間の情報共有	①進路選択につながる講演会等を実施できたか。 第1志望の進路実現50%以上、現役合格目標：国公立大学60名、早慶上理ICU・G-MARCH計80名 ②大学入試改革等への対応策の検討は進んだか。 ③高大接続改革研修会等に参加し情報共有し指導に活かされたか。				
4	本校生徒は自らを律し、行動している。今年度も生徒の資質を一層伸ばすため、個々に寄り添った指導や支援を行う必要がある。 本校の通学圏に在籍する中3生の割合は昨年度比-4.5%と生徒募集も困難が予想される。地域の期待を担う伝統校としての魅力の更なる発信により、生徒募集の一層の充実を図る必要がある。	生徒指導の充実  広報活動の工夫改善	①組織的な整容指導と挨拶励行指導 (生徒指導部・渉外部・全教職員) ②教育相談の充実 (担任・校内支援委員会) ・一人ひとりに寄り添う教育相談の実施 ・専門機関と連携したきめ細かな個別指導 ①地域・中学生に本校の魅力の発信 (教務部・全教職員) ・学校説明会や学校見学会の開催 ・中学校や塾等主催の説明会へ積極的に参加 ②学校ホームページを活用した情報発信 (全教職員)	①全教職員、PTAの協力による組織的な指導ができたか。 ②校内支援委員会を中心に個別の生徒の課題解決に向けた支援ができたか。 ①本校の魅力を十分発信し、入試倍率に反映できたか。(昨年度1.17倍) ②学校ホームページの更新数やアクセス数を増やすことができたか(昨年比)。				